

オージーホリデイ～シドニー旅行2014

1. オーストラリア

今年の旅の目的は、ワラビーズとAFL。ダーリングハーバーを拠点に、オペラハウス館内観光、ホエールウォッチング、シンビオ・ワイルドライフパーク、ワトソンズベイの散歩などなど。



伊丹から成田経由でシドニーに到着。現地添乗員から旅行中の予定を聞かれて、答えを返したら「現地の人の休日みたいですわね。」しかし、AFLについては、ほとんど認識もなく、シンビオなど初耳だそうで、この返事は、すなわち称賛の辞を意味するのでしょうか。ラグビーと有袋類、大自然が好きでノホホンとしたお国柄に魅せられて、何度もこの地を訪問しています。



2. ダーリングハーバー

シドニーでお食事するならダーリングハーバー。お洒落なレストランが立ち並び、土曜の夜は花火が上がるし、なんたって夜景が最高。ワインで乾杯して、おすすめシーフードをいただいて、南十字星を観察、周辺を散歩するだけで、ロマンチックが止まりません。



今回は、それに加えて桟橋側から「いつかは宿泊したい」と思って眺めていたNOVOTELを宿泊先に指定。部屋は9階のハーバービューで、窓枠を額として見える眺望は100万ドルの夜景。特等席で花火を見学、朝方はシドニータワーの彼方にお月さまと、ひときわ輝く明けの明星(金星)・・・素晴らしい部屋に6泊、贅沢しました。



水族館もこのダーリングハーバーに位置し、単孔類のカモノハシがお出迎えしてくれて、海中をひらひらと飛ぶマンタ(エイ)に鼻先が特徴のノギリザメ、「ニモを捜せ」の主演のカクレクマノミ、枯葉サイズのタツノオトシゴのリーフィー・シードラゴンなどが水槽を泳ぎます。



3. オペラハウスとハーバーブリッジ

今回のツアーに含まれていたのが「オペラハウス館内ツアー」です。世界遺産に認定されたオペラハウスは、シドニーのランドマークとして有名で、ハーバーブリッジ、ロックスと合わせて必ず立ち寄る観光の目玉商品です。

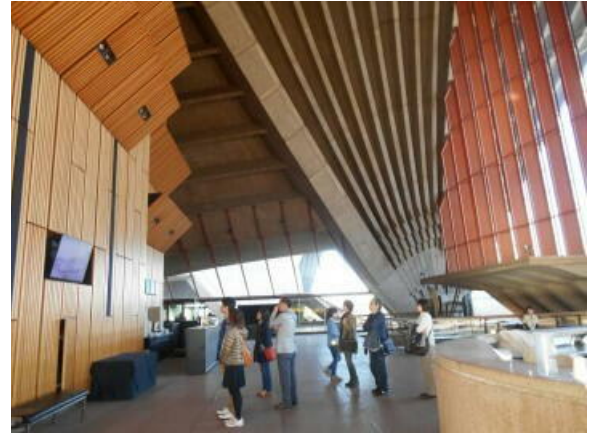


建物の後方から、海から、ハーバーブリッジから、対岸のミルソズポイントからと、オペラハウスをバックに写真撮影しましたが、内側からは初体験で、PC技士(プレストレスト・コンクリート技士)の資格をもつエンジニアの私として、興味津々で館内を見学しました。



オペラハウスの正面は海側で、3つ建物から構成されます。中央がコンサートホールで左側がオペラ会場で、右側はレストラン。外側はコンクリートのセグメント(ブロック)で構成されています。全て集めれば球体になるそうで、わかりやすく説明すれば、みかんの皮をむいて、むいた皮を上手につなぎ合わせればオペラハウスの形ができあがる・・・って、ホンマかいな。

橋桁並べて、特殊技術でつなぎ合わせて一つの橋梁を建設する感じで、曲線型のブロックを並べています。内側から見上げると、曲線型部材だけでなく出雲大社みたいにコンクリートの柱を組み合わせた状態です。この特殊技術こそ、PC緊張工法で、建物はPC建築と分類されます。



ホール部分については、木材などでできており、外側の設計者と内側の設計者が別の人で、外と内は別物ながら、美しい外観と、ビックリサイズのパイプオルガンと音響設備という内部で構成されます。ホール内の撮影は禁止されていますが、ホワイエ部分から眺めるシドニー湾の姿は格別、王者の気分になれること間違いなしです。今度は、夜のコンサートのチケットをゲットして、交響曲を聴いて、待ち時間はホワイエから夜景を眺めたいものです。

周辺の夜景も美しく、ハーバーブリッジを見上げるロックスのレストランでディナータイムを過ごし、対岸のミルソンズポイントまで、ハーバーブリッジを渡る電車に乗って移動、ルナパークからオペラハウスを展望してきました。



4. 船に乗って

サーキュラキーからフェリーで、ワトソンズベイに到着。波止場でフィッシュ&チップスを買って、岬の先端(サウスポイント)まで歩きます。海から垂直にせり上がったテーブルランド地形が続く崖の上から外洋を眺め、コップ洗い専用ブラシみたいな形の実がなる植物のバンクシアも並んでいます。



砂浜に石畳、鳥の声が聞こえるブッシュ、ボードウォーク、戦争の名残の砲台跡、チン出しオツケーのヌーディスト・ビーチへ続く道なんかもあって、岬の突端の灯台に到着です。



対岸の岬(マンリー・ノースポイント)が見える展望台(というか、せり出した岩の上)に腰をおろしてランチタイムです。外洋に向かうクルーズ船、ホエールウォッチングに向かう船などを眺めて、風に吹かれてお腹を起こす・・・これも一つの贅沢ですね。



この時期のクジラは、温かい海に向かって、タスマン海の魚を食べてゆっくりと北に向かって移動します。しかも、陸に近い位置を泳ぐそうで、ホエールウォッチングに最適のシーズンです。波の高い外洋に出て、シーシックと闘いながらクジラを探し回って、発見したら囲い込みなんてイメージとは大違いで、サウスポイントから見える程度の近海でクジラを確認できました。



連なって泳ぐ姿や、ブリーチというジャンプも見せて貰いましたが、クルーズ船から遠い場所だったので、撮影には成功しませんでした。ホエールウォッチングは、大自然に生きる生命を確かめるという意味で素晴らしい体験ですが、商業捕鯨をする日本人に対しては批判的ですから、独自の食文化の善悪の議論は別として、そんな事実を受け入れた上で船に乗り込んでみましょう。



5. シンビオ・ワイルドライフパーク



6月24日、お誕生日おめでとう。今年のバースデイは、オーストラリアの可愛い動物たちに祝って賞おうと思って、選んだ訪問先は、現地添乗員さんも知らなかったシンビオ・ワイルドパークです。タウンホール駅から電車に乗ってヘレンズベレ駅に到着。

タクシーが待ってないので、バスに乗るにも時間があるし、バスを降りてから半時間以上歩くという情報から、タクシーを発見次第捕まえるのを前提に、最初から歩く事にしました。グーグルマップを見ながら、野鳥のさえずりを聞いて歩く。歩く。歩く・・・って、ゴールが見えない状況で、タクシーにも遭遇できず1時間以上歩いてやっとこさ目的地に到達。



ありがたや～で入場しましたが、園内工事中的の場所が多くて、端から端まですぐに回れる程度の広さです。タスマニアデビルに、ハリモグラ、コアラ、クロコダイル、ディンゴにウオンバット。オーストラリアの象徴、カンガルーは放し飼い。アジアからは、スマトラタイガーにピグミー・マーモセット、ミリアキヤット、腹が黒いけど可愛いレッサーパンダなど。



苦勞して歩いてきたから、ゆっくりとノホンとした動物たちを觀察。親子のコアラをゆっくり觀賞、放し飼いのカンガルーは人懐っこくて、餌を与えると、よりフレンドリーにグッダイしてきます。



ゆったりとした時間を過ごして、駅までタクシーを呼んで貰おうと売店をお願いすると「ここには、タクシーの連絡番号が無い。というより、周辺でタクシーが無い。」という返事で、バスを待つしか方法が無いそうで、平日だった事もあって、次のバスまで1時間半という事実を知らされて、それまで園内のカンガルーやウオンバットとまたまた、ゆったり・というより、ウオンバットは完全に眠っていました。



時間が近づきバス停の場所を特定しようともう一度聞いてみると、「入口の正面右側で手を振ってね・・・」らしきこと教えてくれました。(ジェスチャーで判断しましたが)時間が迫って正面に右側に出てもバス停らしきものは見当たらないし、正面云うてもどちらの車線かわからないし。バスの進行方向を考えて、道路を渡って構えて右ばかり見てたら、なんとバスは左から・・・「このバスに乗れなきゃ、また1時間以上歩いて駅まで行くなんって拷問やん。」と思ったから、とにかく手を上げて助けを求めました。運転手は、OKサインと待っててね・・・というポーズをしてくれて、先のロータリーを回転して無事私たちの前に停車。奈良交通の山間部によくある自由乗降バスのパターンでした。冷や汗もの乗車、料金を支払って無事ヘレンズベレ駅に到達しました。



あとで現地の人に聞いてみたら、ここは、地域の小学生の遠足の目的地で、観光地というより、ちょっとドライブの休憩で立ち寄るスポットで、都心部から遙か彼方で、タクシーの需要も無く、平日に公共交通機関を利用して訪問する人なんて認識の範疇を逸脱しているらしき場所だそうです。

シドニーで動物と触れ合う場所と言えば、タロンガ、フェザーデイル、ワイルドライフパーク(ダーリングハーバー)などがメジャーですが、今回訪れたヘレンズベレの「シンビオ・ワイルドライフパーク」と、合わせて数年前訪れたゴスフォードの「レプタイル・パーク」は、地元密着のノホホンとした素晴らしい施設ですから、ノーマルな観光に飽きた人にお勧めの、マイナーの最高峰として評価したいと思います。ホンマ、忘れる事のできない誕生日になりました。



さてさて、次の誕生日は、いずこへ？

2014年6月30日記(旅は6月18日～25日)

Top
トップ
へ

Back
戻る

